

Ⅱ 教育課程

第6分科会 社会を形成する力

研究課題 社会を形成する力の育成を目指す教育課程の編成と校長の在り方

分科会の趣旨

東日本大震災や豪雨等による被災地においては、子どもたちが率先してボランティア活動を手伝ったり被災住民を励ます支援活動を行ったりする姿が多く見られた。こうした事例から地域の身近な人たちとの絆が改めて見直されており、地域コミュニティを維持発展させていくことがますます重要と考えられる。校長は、これからの社会を生きる子どもたちにしなやかな知性と豊かな創造性、豊かな人間性を育むとともに、子どもたちが自己の置かれている状況を受け止め、他者と協力して社会の様々な活動に参画し、社会を形成する力の基礎を身に付けられるようにしていかなければならない。さらには開かれた学校として地域コミュニティの核となり、社会とどう関わり、どのように貢献しているかを考えた学校づくりを進める必要がある。

そのためには、子どもたちが考え行動するプロセスを重視し、地域の特色を生かした豊かな体験活動をさらに積極的に取り入れていくことが大切である。例えば、生活科、社会科、総合的な学習の時間などにおける、地域の特性を生かした学習内容や地域素材の学習内容について、発達段階に応じて系統的に整理したり、それらに関連付けたりして教育活動を創造することが考えられる。

また、学校の研究内容を「社会を形成する力の育成」と関連付けて見直し、「対象に働きかけ、主体的に問題解決に取り組む子ども」「自他のよさを認め、共にかかわりながら学びを広げていく子ども」等、子どもに育てたい力について、「社会を形成する力」の観点から整理して教育課程を編成することも考えられる。

本分科会では、校長のリーダーシップのもと、将来の社会を形成する役割を担う子どもたちに、各教科等で身に付けた知識や技能等をもとに、より良い社会の形成に向け、主体性をもって社会の活動に積極的に参画し、課題を解決していく力や態度を養うための具体的方策を明らかにする。

リーダーシップの視点

(1) 社会に貢献する力の育成を目指す教育活動の創造

核家族化、少子化等による家庭の養育姿勢や地域コミュニティの変化に伴う地域活動への参加機会の減少等により、子どもたちは家庭や地域において、社会性を高めたり人間関係を育み広げたりする機会が減ってきている。

学校には、家庭や地域と連携しながら、子どもたちに様々な人々や社会と関わり、社会生活の基本的ルールを身に付けさせるようにしたり、社会との関わりを豊かにしていく力を身に付けさせたりすることが求められている。さらには、社会の変化に対応し、より良い社会の構築に貢献できる力を育成することも求められている。

そこで、「地域マップづくり」「地域の伝統工芸を学ぶ」「地域のお年寄りとのかかわり」「植花運動を行おう」など、地域の人との関わりや地域についての調査、地域の行事に参加すること等を通して地域の一員としての自覚を促すような教育活動を考えるなど、社会に貢献する力の育成を目指す教育活動を創造するための、校長の果たすべき役割と指導性を究明する。

(2) 自立した社会人を育成するための教育課程の編成・実施・評価・改善

学校は、子どもたちに社会の仕組みを理解させ、自立した社会人として生きていくために必要な知識や能力を育み、社会の発展に積極的に関わろうとする態度の育成を目指した教育課程を編成する必要がある。

そこで、社会づくりに貢献しようとする意欲と態度を育て、自立した社会人として生きていくための基礎となる力を身に付けさせる教育課程を編成・実施・評価・改善していくための、校長の果たすべき役割と指導性を究明する。